



秋田県立
能代高校
東京同窓会

会報

No.2
事務局
〒164
東京都中野区中央5-7-1
(株)友和
TEL.03-383-2111



風の松原

校歌

文学博士 藤村 作詞
東京音楽学校教授 岡野貞一作曲

- 一、そのかみはうねり城濶く
尽きせぬ流氷米代の
水に我等の聲はしき
若き生命を讃へつつ
若き生命を讃へつつ
- 二、み空にひびく日本海
沖より寄す巨濤の
巖つんとく勢に
強き力を学びつつ
強き力を学びつつ
- 三、平和の相樽子山
常盤の緑旭日に
映えて我等の麗はしき
清き操をたぐへつつ
清き操をたぐへつつ
- 四、薫り高き学び舎の
象徴をわがびたすらに
学びの道を究めよや
奮へ松陵我が健児
奮へ松陵我が健児

能代高校東京同窓会のあゆみ

年 度	総 会	出 席	案内状 発 送	招 待	あ ゆ み
3 2					後藤氏など有志の方々が、東京支部の形で活動始まる。
4 1					この年の総会がきっかけとなり、毎年総会を開催し、同窓生の親睦を図ろうと決定された。
4 8					斬新なる理想に燃えた有志が、会の発展のため、テコ入れが始まる。
5 0					東京在住の同窓生は、卒業生のための宿泊所などを作らなければと、革新的な意見が出る。
5 1					役員改選。○名誉支部長腰山（前支部長）○支部長板倉（前副支部長）○副支部長塚本、柳谷 ◎組織が固まる。
5 2	10/8	71		4	
5 3	10/13	78	400		○会則一部改正。○茗溪会館に感謝状贈呈。
5 4	10/21	62	500		○名簿作成。
5 5	9/27	56		4	○8月末現在、名簿登録者425名。
5 6	10/3	85	445	5	能代高校東京同窓会と改称。○役員改選 ○名誉会長腰山○会長板倉○副会長後藤、吉田、河田、相沢、栗原、太田、高谷○会計幹事村井、八柳○事務局小林
5 7	10/2	93	467	7	
5 8	10/1	88	502	5	○名簿作成 ○役員改選
5 9	10/6	76	565	5	
6 0	10/18	100	600	6	○役員改選
6 1	10/3	124	656	4	○山田敬三氏講演。○能代北高、能代工高同窓生を来賓として招待。
6 2	10/2		960		○役員改選 ○会報第1号発行。
6 3	10/7	121		15	○斉藤忠生氏講演。○名簿作成 ○会報第2号発行。

は・じ・め・に

青春

秋田県立能代高校東京同窓会名誉会長
腰山 巳代治(旧制1期)

青春とは 人生のある時期をいうのではない 心の様相をいうのだ
年を重ねただけでは老いなり

理想を失う時はじめて老いが来る

歳月は皮膚のしわをますが

情熱を失う時精神はしほむ

人は信念と共に若く 疑惑とともに老ゆる

希望ある限り若く 失望とともに老い朽ちる

これは、米国の詩人サミュエル・ウルマン
「青春」の詩の全文から、エッセンスを抜粋したものが、米国でもマツカーサー元帥、
鉄鋼王カーネギーたちが愛し、日本でも財界でブームを呼び、古くは、電力の松永安左
門、松下電器の松下幸之助、トヨタの石田退三などの名経営者の多くが、
金科玉条と仰いだ「青春」の詩句である。

一日と短くなってゆく晩秋には、人の心も愁いに沈む。
景気の落ち込みや、人員整理が伝えられると、中高年者にとつては、心細さもひとしほ
ある。

不安、失望、苦悶、憂鬱で、気が滅入り、心がくじけそうになる。
そんな時、勇気付けてくれ、読めばまた希望が湧いてくるものに、米国の詩人サミュエ
ル・ウルマンの「青春」の詩がある。

私の若さと情熱の源泉も、この詩におう処が多い。



63年度能代高校東京同窓会総会開催

10月7日午後5時
於・茗溪会館

能代高校東京同窓会会長挨拶

板倉創造 旧制3期



毎年一回の東京同窓会総会ですが、この同窓会は割合型破りなところがございまして、特に私たちがうれしく思いますのは、毎年恩師の諸先生のご出席をいただく。これがまあ、我が同窓会の喜びであると同時に誇りでもある。それから、同窓会の会長さんおよび校長先生、そのほかに去年からは、市長さんがわざわざいらっしゃる。それだけではありません。能代工業高校、能代北高校ご卒業の幹部の方々がお見えになる。というようなことで、ほかの高等学校の同窓会には、ちよつとない企画のもとに運営されておると、私は非常にう

れしく思っている次第です。

ご承知のように、第1期生で、初代の同窓会会長を長らく勤められた、吉武栄一さんが先般ご病気のためなくなられました。東京の同窓会としては、ここで重ねてご冥福をお祈りいたします。吉武先輩だけではなく、同窓会会員のなかには、不幸にしてご他界された方たちもいらつしやると思ひますので、そういう人たちのご冥福を、心からお祈りしたいと思ひます。

今日は来賓として、山上先生、伊勢先生、武田先生を始め、たいへんたくさんの方々がお見えになっております。ただ今、私の隣に座られた非常に美しい方は、参議院議員の小野清子先生、先生と仰るのですか、えー、そういう方もお見えになっておられますし、会場の中には、能代高校出身の女性のほか、能代工業の方、北高の先輩もおられるかも知れません。

われわれの時代と違って、新制度以降、こういう美しい女性の方々と、

いろいろお話できるチャンスに恵まれる。これもまた、我が同窓会として、誠に感激厚い次第でございます。というような具合で、会長の挨拶として果たして適當であるかどうかは別として、まあ、こんなところで勤弁していただきたいと思ひます。

事務局長報告

小林 肇 旧制19期



今回、同窓会の総会開催のご案内をいたしましたところ、みなさまには公私ともに非常にお忙しいなかを、わざわざおいでいただきました。本当にありがとうございます。さらに、諸先生そして同窓会長、学校長、

能代市長さんにお越しいただきました。誠にありがとうございます。同窓会も会を重ねる毎に、非常に盛会になって参りました。今回みなさまにはいろいろお手数をおかけしましたが、5年毎の同窓会名簿の発刊の年にあたり、本当にお力添えをいただきました。ありがとうございます。

名簿も、58年発刊のときには、五百四拾五名の方の掲載でございましたが、この度の名簿には一千参百六拾五名の多きを数えることができました。この5年間で、実に2.5倍に当たる方々のご協力を仰ぐことができたことになりました。名簿には、まだまだ不備な点もございますが、名簿によるご迷惑をかけないようにという配慮から、今回個人のお電話番号は、名簿から削除させていただきました。

せつかく作る名簿ですから、みなさんにはできるだけご迷惑をかけるようにと、今後も一層の研究をさせていただきます。今後ともよろしくご協力のほど、お願いいたします。

総会も非常に大勢の方に見えていただくようになりましたことは、ひとえにみなさまのご協力の賜でございますが、私たちの調査によりま

すと、現在2千名を越す有資格者がおられます。つい最近の方々を入れればもっと多いわけですが、この上さらに一人でも多く集まっていたら、今後ますます会を盛り上げ、利害関係のない会として、また本当に楽しんでいただける会、仲間として集まれる同窓会にしていきたいと思

います。特に、本会発展のため、一層多くの若い方たちに参加いただき、その人たちに、東京同窓会のリトダ―シツプを担っていただく日が、一日も早いことを期待してやみません。今後ともみなさんのご協力、ご指導をよろしくお願いいたしたいと思います。また、ご意見などありましたら、どんだん事務局のほうへお申しつけ下さい。

●来賓祝辞●

能代高校同窓会会長

神馬恒成氏



昨年に引き続きまして、再度のお

邪魔でございます。今年も多数の同窓の方々にお目に掛かれ、また会の隆盛を目の当たりにいたしました。大きな喜びとともに、誠に心強さを覚える次第でございます。

さて、同窓会も能代を始め、秋田、東京などと各地で隆盛でございますが、それを見るにつけても、これからの同窓会は、今後のあり方を今一度考える時期に来ているような気がします。ただ単に同窓で学んだ過去を振り返り、懐かしむのではなく、今日の会合がそれぞれの現在の生活に、何かをもたらしものでなければなりません。ただ今、事務局長さんが、利害関係のない会として、十分榮しめる会として、発展を見て行きたいと申されました。その通りでございます。

同窓会は、とかくクラス会の集合体になりがちです。あちらでは何期のの人たちが、こちらでは何期の人たちがと、旧交を暖め、思い出話に花を咲かせます。もちろんそれも結構です。しかし、それだけではもったいない。能代高校も、旧制1期に始まって、新制もやがて40期の卒業生を、世に送り出すに至ろうとしております。これだけの歴史を持つわけですから、その歴史をもっと有効に

生かすことを考えてよいのではないでしょうか。つまり、横のきずなをより強固にすると同時に、縦の人脈作りとでも言いましょうか、そういうものにもっと積極的に、果敢に取り組んでいいと思います。各自がそういう姿勢をもってこそ、この同窓会も果てしない発展があると、考える次第でございます。

加賀正隆能代高校長挨拶



おかげ様で、能代高校も在籍者数九百八十名余り、一学年7学級、いわゆる普通課程、進学校としての面目を保っております。

ただ、ちよつと気にかかることは、先輩方のいろいろな激励にもかかわらず、最近、部活動が低迷しておることです。52、53年の甲子園出場の時のような覇気がなくなってきました。残念であります。私の考えとしては、部活動がきちっ

とできて、そちらの面でも、いわゆる名のある時には、進学もよくなるということが言えると思います。どちらが根底となるかは別として、現在、生徒の覇気というか、挑む姿勢といった点で、ちよつと気がかりなところがございます。

いずれ何らかの施策をもって、補強すべきは補強しながら、その強化を図って参ります。能代高校には、現在十五の体育部があるわけですが、その中でも、野球はもちろんのこと、かつての名門である体操、バレーボール、この3つをまずいろいろな形で補強したいと思ひ、神馬会長とも話しております。その結果は、今まだどうということば申せませんが、残念ながら、今年の夏にその成果を見ることはできませんでしたが、臥薪嘗胆（がしんしょうたん）という言葉もござります。来年を期して一つというところで、一層の努力とテコ入れをいたしております。いずれにしろ、この姿勢を核としまして、学校の態勢を整えていきたいと思っております。

樽子山から、機織の田圃のまん中の高塚へ移転して以来、すでに拾数年になります。前の市長さんのお話で、「あそこへ移ったことは、いろ

「いろいろな面で市のマイナスイメージだ」と
か言われたことを、覚えております
が、ただ、樽子山の伝統と言います
か、先輩諸兄の能中時代からのそれ
を、なんとか高場の地に、再び花開
かせようと、歴代の校長もいろいろ
心を砕いて参りました。

そういう諸先輩の努力で、学校ら
しくなりました。われわれも松陵健
児の精神を育むと同時に、今後さら
に、雨天体育館や図書館などの内部
設備、あるいは、学校周辺の地盤整
備などを考えていこうと思っております。

同窓生の方々には、特に本日お集
りの先輩諸兄には、いつも遠い所か
ら学校を心配していただいて、本当
にありがとうございます。伝統は単
に守るべきではなくて、時代時代の
実績を、そこに積み重ねていく。そ
うしてこそ、先輩の意志を受け継い
でいけるもの、と思っております。
そして今、そういう実績作りに励ん
でいるところでございます。今しば
らく、暖かい目で能代高校を見守り
続けていただくことを、心からお願
い申し上げます。

●会長より講演者紹介●

ここに紹介する齊藤忠生さ
んは、たいへん変わり種であ
りまして、能代高校を出てから
テナーとして、今、日本で知ら
ない者がいないくらい活躍を
されておる。テナーとしてだけ
でなく、芝居もやるんですね。
しかも、秋田弁でしゃべる芝居
が最も得意でして、つい最近も
魁新報の主催でしたが、山谷初
男さん、佐々木愛さんと3人で
1ヶ月間に渡って、秋田県内各
地を芝居の公演で回られました。
「結婚申込み」という翻訳物で
ございましたが、これが、もう
抱腹絶倒、秋田の衆でなければ
全然わからないですね……ええ
私も行きましたけれど……。た
えば、クサレタマグラなどとい
う秋田弁も飛び出す。今時、地
元にもこんな言葉がわかる人は
少ないのではないかと思うので
すが、そういう秋田弁でペラペ
ラといったお芝居でして、大変
感激いたしました。
キャリアを拝見しますと、我
が山本町北岡中学校を経て、
能代高校を卒業。それから悪戦
苦闘、二期会会員、すばらしい
テナーとしての今日を築いたわ
けです。本日は、後ほど懇親会
で、歌のご披露もいただく予定
ですが、その前にお話をちよつ
とうけたまわります。「ワダシ、ウ
ダッコタバイドモ、シャベル
ノ、ヤダス」なんて、カッコつ
けておりますが、ま、そういう
ことを言わないで、10分でも5
分でも結構でございますので、
よろしくお願いいたします。

講演

人生に歌あり



齊藤 忠生氏(新制15期)

らず、出て来たんですが、上野の駅
を出まして、僕はその時、多分上野
広小路の鈴本の前辺りを通つたんで
そこで気が付いていけば、ひよつと
したら、林家三平師匠の弟子か何か
になつていたかも知れません。

もうしわけありません。こんなす
ごい先輩の方たちを前にして、ああ、
びっくりした、という感じですよ。本
当にしゃべることなんて、資料もな
いし何にもないんですけど、会長がど
うしてもしゃべれと言いますので、
こうなりやどうでもいいや。この際
腹くくりにします。

今日ご出席の武重先生などに「ば
が、おめ、知らねが、ばがけ！」と
クソミソにこきおろされ続けた、秋
田時代はさておきまして、東京へ出
てきた時からのお話をいたします。

ほかに何もできないから、東京で
歌でもうたおうかと思つて出て来た
んです。ええ、それは、まあ最初か
らそう思つて。何しろ右も左もわか

たまたまその反対側のアメ横を通
つて御徒町へ出た時、そこにアルバ
イトサロン「宝島」というのがあり
ました。ええ、そのアルサロの下に
「バンドボーイ募集」と出ていたん
です。明日から飯食わなきやならん
し、しようがないからと思つて、そ
こへ飛び込みました。たまたま「や
つてみる」ということになつて、そ
れからそのアルバイトサロンという
いかかわしい所で、僕は仕事を始め
たんです。それが僕の音楽のきつ
かけでございました。

そこで、そのバンドをしばらく続
けることになりました。そのバンド
マスターは武蔵野音大を卒業した人
でしたが、そのバンドマスターがある時、
「おまえにはどうも、演歌とかポピ
ュラーの曲は合いません。おま

えは、多分クラシックのほうがいいんじゃないか」と、こう言うわけですね。「それじゃ私、何すりゃいいんですか」ときいたところ、「とにかくこの曲2曲覚えろ」と、こう言いました。

それが僕の19の時でした。それでクラシック2曲覚えたんですが、たまたまNHKに試験があったわけですから、洋楽のオーディションがありました。これを受けることになりました。行って2曲うたったんですが、芸大の人たちがばた落ちる中で、僕が入っちゃったんです。その日、NHKを受けて僕一人だけが受かったんです。だいたい受かるにしても、22、23歳が普通だそうですから、今でも最年少記録だということですよ。私、その時19歳の秋でした。「これはひよつとすると、私、いい声なんじゃないかな」と、そこではじめて自分の持っているものに気が付いたようなものです。そこでNHKから、「今度は番組を作るから、8曲持つて来るように」と言われました。ところが、急に「8曲持つて来い」と言われても、僕は2曲しか知らないわけですね。しかたがないので、もう一度パンマスの所へ行って、「あと6曲なんとかして下さい」と、頼

みました。

そのパンマスの同級生に、かの有名な大谷冽子さんがおりました。

「大谷冽子を紹介するから、行ってしろ」と言われて、大谷先生の所へ伺いました。そこで何とか残りの6曲を作っていたのですが、そうこうするうちに、先生は「君は絶対、武蔵野音大でもどこへでも入れるから、2年ぐらいちやんと勉強しなさい」と、こう言うんです。

「ピアノはどうなの？」とききますから「いえ、全然できません」「じゃー、ソルフェージュはどうしたの？」「いいえ、全然やったことがありません」「しよがないわね。では、私が先生を紹介してあげるから……」ということで、武蔵野音大のピアノの先生を紹介していただきました。

最初は、バイエルというのをやらされました。ところが、これを3カ月続けると、もういやになってしまったんです。そこで、大谷先生に「先生、僕、もういやになったよ」と言ったら、「しよがない子ね」と言いながらも、先生に今度は、聴音といって、音を聴いて楽譜に書くという勉強をさせられたのです。ところがこれも3カ月はかり続けます

と、もうだめなんです。また先生に「いやになった」とだだをこねたところ、「しよがない、あんたは大学は諦めて、歌やりなさい」ということになって、大谷先生の内弟子に入ることになりました。

そのうちいろいろ、飯を食わなければならぬという事情にさせまられてきました。とにかく私の場合、歌をうたうということは、金をもらうということ、18すぎぐらいの時から、ずっとそれを続けてきました。その時は、NHKの子ども番組だったのですが、そのレギュラーを一本いただきまして、一年間この子ども番組をやりました。

その後、立川清人先生に会う機会に恵まれたんです。当時ヒルトンホテル、今はもうホテル東急と言うのですが、そのヒルトンホテルでのイタリアン・フェスティバルというのに、僕はイタリア人と二人でショーに出ておりました。

その時、たまたま立川先生、若杉弘さん、芸大の畑中教授といった人たちが、飯を食いに来ました。「あいつ、おもしろいんじゃないか」という話になって、立川先生が私を二期会に紹介してくれたわけですね。さて、二期会のオーディションを

受けようと思っただけで、行きました。ところが、今を時めく最高の歌い手たちが7、8人、発声練習をやっていたんです。僕はこれを横で見えておりまして、「こりゃ、もうだめだ」と思っただけで、逃げだしたんです。逃げだしたところ、立川先生のマネージャー、青木さんというのですが、この人に見つかりました。しかたなく、私は「とてもオーディション受ける方じゃないので、失礼します。逃げます」と言いました。「あんた、逃げるのはかまわないよ。でも、立川さんに一言だけでも挨拶してから帰らなさい」と、こう言われました。

そこで、試験が終わるまでずっと横で待つてました。やがて、立川先生が降りてきたのです。しかたがないので、立川清人先生の所へ行って、「すみません、今日は、あんなすごい人たちとじゃ、とても試験受けられませんでした。失礼します」と、言いましたところ、「バカ野郎！」と一喝されました。立川先生は「みなさん、もう一回！」と、もう一度審査員の人たちを、審査の席に戻しまして、僕一人だけのオーディションをやってくれたのです。こうして、私はクラシックの世界に入るようになりました。こういう

経過をたどってクラシックに入りま
したが、その時一番困ったのは、金
でございませう。その後何度も何度も
いろいろな人に助けられました。

日大芸術学部の教授で、近江栄と
いう方がいらっしやいます。ある時
僕は殆ど食い物が無いというギリギ
リの状況にありました。その時、教
授が「おまえ、どうしたんだ」とき
かれましたので、「ハイ、実は、金
がないんです」と言いましたところ
あの当時50万円という大金を、ポン
と出してくれたのです。「おれも貧
乏人だ。たかだか学校の教師だ。だ
からおまえにやる金はない。その代
わり、駿河銀行神田駿河台支店の普
通預金口座のおれ宛に、できるだけ
早く返せ。ただし、期限は問わん」
ということ、急場をしのがせてい
ただきました。ですから、あの先生
には、今でも足を向けては眠れない
わけです。

に大西日比生という会長がおりまし
て、その会長がおりにふれ、援助し
てくれます。ま、あまりたくさん金
はくれませんが。



こうした形では、いろいろみなさ
んにご迷惑をかけてきました。で
は、金のためならどんな仕事でもで
きるものなのかと言うと、そうでも
ないのです。

相談相手がなくて、ひとり頭を抱
えて悩むことがよくあります。なぜ
悩むかと言うと、喜んでできる仕事
がなかなかないわけです。その仕事
が、自分に似合うか似合わないかと
いうことがございます。日本の今の
クラシックの歌い手というのは、仕
事する機会が少ないものですから、

それが自分に似合うか似合うまい
が、来る仕事は全部お受けするとい
う、非常におかしなところがあるの
です。

ある時、読売交響楽団の仕事でし
たが、一晚中考えたって結論が出ま
せんでした。そうしたら、君に似合
うかどうかは、他人の目のほうが確
かだ、と4、5人の友人たちが言っ
てくれたのです。それで、周囲の人
にきいたら、君には似合わんという
ことでしたので、私は即座にその仕
事を止めさせていただきました。

しかし、あの当時、私にはキャリ
アもなければ、何も無い、ある意味
では学力もないわけです。こういう
人間が、一発失敗したら絶対起き上
がれないのが、この世界です。です
が、今考えればよかつたと思ってお
ります。ですから今は迷わず、確実
に仕事をしたというか、絶対にミス
をしないというか。こういう仕事な
ら、本番では絶対にミスはしません。
さすがと言われる仕事、小さい仕事
なんです。そういう仕事だけ引き
受けることにしています。

今ちょうど、メリーウイドウとい
うステージを、これから上野の文化
会館でやるのですが、この中のニュ
ーグスという役、これは日本で今僕

は誰にも負けません。そういう自信
の持てる仕事だけしかするのを止め
よう。その代わり、まあ、あまりみ
いりは期待できないわけですが、で
もあいつにあれをやらせれば、「ち
よつとやるじゃない」と言われるよ
うな仕事だけをしよう。そんなふう
に今、思っています。

僕の好きな、と言うよりも、好き
で好きでたまらない詩があります。
たまたま神田の神保町の古本屋で手
に入れたものです。あまり知られて
いない詩ですが、僕は好きです。作
者もよく知りません。

無学・利己的 不勉強
学問を尊敬して 憧れている
怠惰

本を 割りに買う

ただし 読まない

スポーツに憧れる

しつこくて 粘り強い

臆病 涙もろい 衛学的

偽善者

ただし 心は優しいのだ

誰にでも惚れる

浪費 性格が明るい

一言にして言えば

良いことがわかるくせに
実行できない人間
という詩がありまして、ちょうど、

僕は自分のポケットにいつも、この詩を入れて歩いているというか、詩そのものが私と言うか、そんな感じですが。これを、歌にしようと思いつているんです。

若い頃は、三井物産の中国室長で、サミュエル・ウルマンの「youth」という詩を僕にくれた人がいまして、この詩が好きでした。この詩は、電力界の偉い人で、松永安左衛門さんという人などが、座右の銘にしたとかで、今ではもうすっかり有名になってしまっていますし、私としては、あまりおもしろくなくなってしまいましたので、内容は申し上げませんが、ま、そういう本を読みながら、青春時代の心の糧（かて）にした感じですよ。

みなさんもお存知の白鳥先生には、高校1年から3年までずっとお世話になりましたが、先日偶然お会いしましてお話ししました。「君はー」と言いますので、「は？」という感じで話がスタートなんですが、「文学についてどう思うかね」と言いますから、「高校1年の時からですが、先生の話はさっぱりわかりませんでした。でも、ようやく40半ばで、少しわかるようになりました」というような話から、すっかりウマがあつて、

先生と一緒に飲んだんですけど……。

もう多分、クラシックの歌い手としては、あと長くても4、5年であらうかと思っています。では、どうやって生きていくかということは、また、さっきの詩ではありませんが、しつこく、粘り強く何か考えて、お芝居やテレビ、まあ、テレビに出て有名になろうという気など毛頭ありませんが、お金になるんだったら何でも首を突っ込んで……。もともと、スケジュールが真っ黒にならなければ、気が済まないという性分ですので、これからも目いっぱい頑張って、演じて、そして考える、そんな生き方をしてみたいと思っています。

時期が時期でもあります。口にするのははばかりられる点もありますし、天皇陛下のご快癒を心からお祈りする気持ちは、もちろんみなさんと同じですが、昭和がこんなに偉大であったということ、次の世代に残せる仕事、という意味で、友人たちと、昭和にあつた音楽をつづりながら、「昭和の鎮魂歌」という大作に取り組んでみようかと考えているところです。そして、それが私の最後の仕事かも知れないと思っています。どうもありがとうございます。

能代高校東京同窓会

収支決算報告書

自昭和62年9月1日～至63年8月31日

収 入		支 出	
前期繰越分	705,400	総会会場費支払	684,360
寄付金	338,000	総会諸経費	326,000
総会会費	620,000	新聞広告代	25,000
普通預金利息	1,194	同窓会寄付	30,000
名簿売上	10,000	事務経費	13,200
名簿広告料	103,000	郵送料	122,480
恩師招待寄金	111,000	次期繰越金	687,554
合 計	1,888,594	合 計	1,888,594

上記の通り相違なき事を報告申し上げます。

昭和63年9月25日

会計監査幹事 八 柳 昭 義



懇親会

参議院議員 佐々木満氏

旧制15期



私、旧制15期でございますが、今
受付で私の名前が見あたりませんが、今

実は、すっかり新制15期を探していたわけですが、「どうも格好からして新制ではないだろう」ということでしたが、その通りでございます。早くも一恥掻いて参ったところで、それぞれみなさん、いろいろな分野でご活躍でございます、ご同慶にたえません。何も申し上げることはございませんが、先頃、テレビでオリンピックを見ておまして、本当に日本の選手が弱いということで情けない思いをいたしました。その中で、秋田県出身の選手は大変活躍して下さったわけですが、全般的に

は非常に弱い。まあ、かつて「鬼に金棒、小野に鉄棒」と言われた、あの小野喬さんとか、清子さんなどが見せてくれたような活躍をする選手は、もう出ないのかと非常に情けなく思ったわけでありまして。参加することに意義があるというのは、弱者の論理でありまして、スポーツ特に競技スポーツは勝たなければならぬ。負けたら何にもならない。私は何も選挙のことを言っているのではないんですよ。(爆笑)
スポーツのことを申し上げているわけですが、やっぱり勝たなければならぬのであります。

先だって、秋田市で同窓会がありました。野球部の監督さんと部長さんに特に来ていただいて、勝たなければいけない、参加することに意義はないんだ、ということも申し上げたんですが、来年の夏は何としまして勝ちたいと、監督さんも部長先生も決意を述べておられました。みなさん、期待していただいてよろしいかと思えます。

何はともあれ、今日は母校の発展を祈って、幸いみなさん体力はたっぷりあるわけですから、今夜は、力の限り杯をあげようではありませんか。



山上可也先生



ほんとうにお元気で何よりです

ちようと今から60年前の春、学校を出て教員として初めて赴任した所が、能代高校の前身である能代中学でした。従って、先ほどお話の出た第一回生の方々が、当時の中学4年になられたばかりの時に、私は教師として教壇に立ったわけでございます。以来60年経ちますと、このようになるわけであります。今日もいろいろお話が出ましたけれども、およそ今から60年前、若い教師としてさっそうと、いや、さっそうと見えなかつたか、さだかではありませんが、とにかく能代に乗り込んだ山上が、まだどうやら元気でいるという証として、みなさんの前に現れた次第です。

本会のますますの発展をお祈りして、私のご挨拶といたします。

伊勢真佐実先生



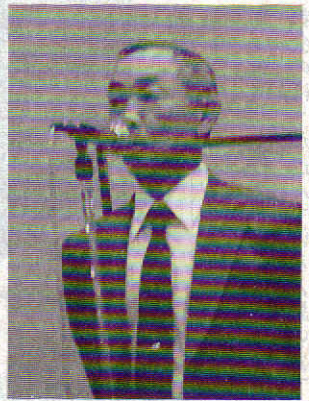
あの能代なまりの英語が懐かしい

えー、わし、あのー、旧制の15期で、佐々木満さんと同期生であります。能代高校に昭和23年に奉職しまして、15年間おりましたが、その後、昭和39年から能代北高校に行きまして11年間、そして昭和50年にまた、新しい学校ができました時に、再び能代高校に帰ってきました。昭和60年まで10年間、母校におりました。その後最後の2年間は、鷹巣高校におりまして、去年の3月退職しました。退職して丸1年以上経ちますが、今のところ元気でやっております。今後ともまたよろしくお願ひ致します。簡単ですが、東京同窓会一同へのご挨拶とさせていただきます。

いと思ひます。



武田重蔵先生



夢もう一度に賭ける能代の鉄腕

旧制16期卒業の武田でございます。私は26年から44年の18年間、能代高校に勤めさせていただきました。その当時は、先輩がたくさんおられまして、古い方からですと、佐々木正之先生とか、熊谷忠一先生、本庄先生、吉武先生、中村先生、大昇先生など、たくさんおられたわけです。おまえは学校出てきたけれども、大した授業もできないだろうから、まあ、バレーボールぐらいしか教えてやれ、と言われました。私にしてみれば、古きよき時代であったと思ひます。その当時の生徒と言へば、今ここに宮腰市長さんもおられるように、生徒にしてみれば、授業のでない先生がいるわけです。大変なことであったと思ひます。おかげ様でよき先輩、よき後輩に恵ま

れまして、6年目でなんとか全国優勝にこぎつけました。その時の選手の菅原などが、東京オリンピックにも出場し、活躍してくれました。最近、あまりバレーボールも強くないよう

で、私もこの3月、退職いたしましたので、少しでも後輩のためになればと、およばずながら力を貸したいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。



宮腰洋逸市長挨拶



どうもみなさん、お晩でございます。私は新制5期ですので、伊勢先生とか、武田先生には気合を掛けられたほうでございます。おかげ様でまんず、なんとか育っております。昨年引き続きまして、東京同窓会にお招きいただき、心から感謝いた

しております。また日頃から母校の能代高校、並びに能代市およびその周辺に対して、いろいろ配慮をいただき、深く感謝申し上げます。今年の4月からは、東京に能代市駐在所を設けております。やはり、能代高校同窓生の児玉君が、毎日そこで頑張っております。どうか、これからもみなさんのお力添えを、心からお願い申し上げます。

私もここへ立った以上、多少能代のことを申し上げなければなりませんので、まあ、お酒を飲みながらも聞いていただければ、ありがたいと思います。先頃、やはり同窓の先輩である教育長の平野清太郎先生がご勇退になりました。そして、能代高校の校長先生を勤められまして、本年3月退職されました三田元悦先生に、この10月1日から教育長をお願いいたしております。どうかこれからも、みなさんのご支援をお願いいたします。

それから、能代市の若干の現況でございますが、今落合地区に組合病院が竣工中で、来年8月の開院をめざして、現在八、九部どりの完成を見ております。また、新能代橋がやはり来年秋の開通をめざして、これも間もなく全部つながります。こ

れて、米代川を挟んでの交通の便利というのが、さらによくなくなるのではないかと期待しております。

残念ながら、能代市は今、5万8千人の人口に減っておりますが、都市計画をいくつかがかえております。みなさんおなじみの柳町本通り、昔の新柳町、ここは様相を一変しつつあります。65年の市制50周年をめざして、着々と進行しております。

あるいは名残惜しい方もいるかも知れませんが、みなさん、大いに飲んだり、遊んだりした所が、大変な変化をきたしております。それから、校長先生から先ほど、高瑞の地に移ったのは大きな間違いだとかいうご指摘もございましたが、能代高校の跡地は、能代・山本の文化の殿堂として、着々整備されつつあります。まずは図書館を建設するというこ

で、立派な図書館を作つて、市の、そして県の文化に貢献するべく、来年から着工できるよう頑張っております。また、今日ここに同窓会会長の神馬先生がおいでになつておられますが、医療福祉の点で、医師会病院、市の保健センター、特別養護老人ホームなどの福祉施設に加え、医師会でさらに中間施設を作ろうというこ

れます。また県のほうでも、老人の総合センターを作ろうという計画で、東能代の整備が大いに進んでおります。



みなさん、都会におられますが、高度医療サービスの面では、確かに都会のほうが進んでいると思います。しかし、日常の健康維持管理の医療

ということでは、地方にこそ、有益な面が多いのではないだろうかと思えます。そういう意味で、総合福祉エリアの整備などを見るにつけ、みなさんも、老後はぜひ能代にお帰りになられたほうが、本当の人生の幸せがあるのではないだろうかと思っております。神馬先生も本当に頑張っておりますので、この点では、能代が一番進んでいる地域であらうと思っております。

若者が出ていくことも大変残念ですので、企業誘致にも力を入れております。おかげ様で、誘致する企業も2、3決まりました。カシオの関連会社で、液晶盤を作るメーカーが来年の4月操業ということで、110名くらいの規模で進められております。さらには、電器部品のメーカーも操業しつつあります。地元若者が残つて、すばらしい能代にすることも大事なわけですが、老人と子供が、健康でしかも安全に暮らせる所こそ、本当の意味で一番すばらしい場所だと思っております。

能代へぜひ来て、変化する能代の状況を、一度ゆっくり見ていただければありがたいと思えます。本日はどうもありがとうございます。